



考案した養殖装置のイメージ図を前に、議論を振り返る生徒

## 藻類で魚を養殖 事業提案で優勝

### AICJ高 来月は世界大会

社会問題の解決を図る新事業を高校生が考案し、英語で提案する全国大会で、広島市安佐南区のAICJ高チームが優勝した。「水産物の乱獲を止め、生態系を守る仕組み」を問われ、再生可能エネルギーとして注目される藻を生かした養殖を提案。68団体のトップに立ち、5月にある世界大会に日本代表として出場する。

大会は3月にあった「グローバル・エンタープライズ・チャレンジ」。起業家教育に取り組む京都市のNPO法人が主催した。予選

当日朝に課題を発表。全国各地にいる参加者は一斉に議論を始め、12時間以内に事業計画書と3分の説明動画を英語で作り、大会本部にメールなどで提出しなければならぬ。

チームは浅沼駿哉さん(18)たち3年生8人。乱獲する漁船を逐一取り締まるのは困難と考えた。違法漁業より安価に魚を提供できる新たな養殖を普及させ、撲滅を図るアイデアをまとめた。藻類を培養し、魚の餌となるプランクトン

を生成する装置を提案。人工知能(AI)で餌の量を自動調整し、低コストで資源管理する計画をした。

独自性や実現可能性がめられ、1位を獲得。メバーの1人、菅剛大さ(17)は「知識や得意なことが違う8人で議論を深めプランを磨く過程が面白かった。違法漁業の解決後、海洋資源保護に役立つ提ができた」と喜ぶ。

日本代表として出場する世界大会では、10前後の代表チームが同様にう。浅沼さんは「各国の世代からどんなアイデア飛び出すのか楽しみ。力尽くして入賞を目指したい」と意気込んでいる。

(奥田美奈子)

保  
育  
前  
に  
な  
る  
拠  
点  
め  
な  
い  
つ  
消

。今  
後、  
稚  
園  
や  
幼  
児  
教  
育  
指  
導